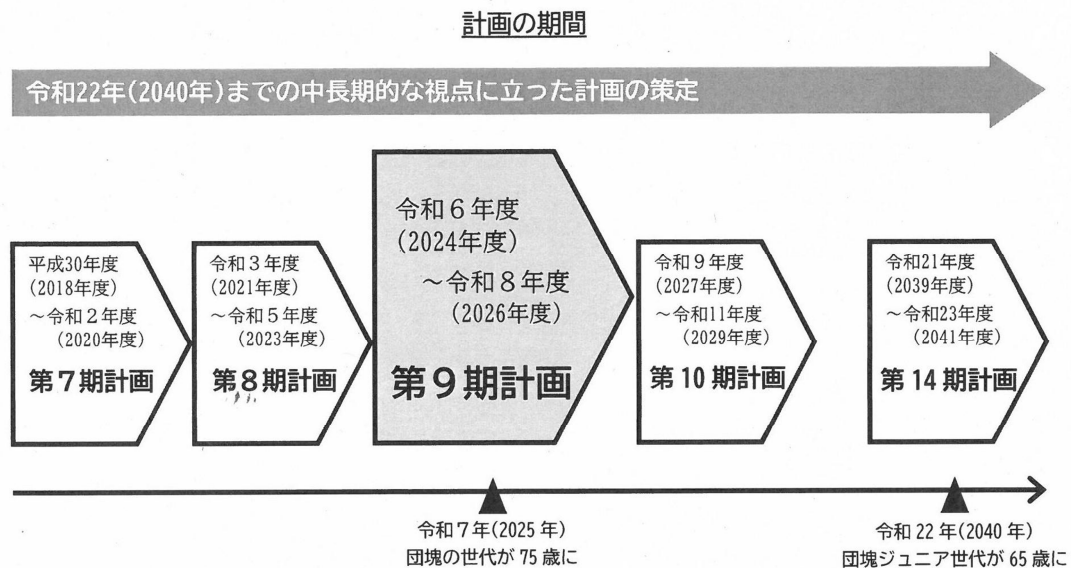


第9期介護保険事業計画の進捗状況について — 給付実績・被保険者数・認定者数 —

介護保険事業計画は、介護保険法に基づき市が策定する介護保険の保険給付を円滑に実施するための計画です。各年度における種類ごとのサービス見込み、各年度における必要総数等を設定し、計画に基づき介護保険料が設定されています。観音寺市でも3年を1期として介護保険事業計画が策定されており、昨年度は、第9期計画の初年度でした。



毎年度、計画策定時に描いた各年度ごとの計画値と実績値とを照合し、乖離のある項目について、その要因を考察しています。その考察を踏まえて対応策を検討し、次期介護保険事業計画へ反映し、必要な見直しを行います。

次ページ以降の青色の吹き出しは、「令和6年度 総括表(対計画比)」において示されているそれぞれの吹き出しに対応しています。

第9期観音寺市介護保険事業計画 計画値と実績値のモニタリング(令和6年度分)

計画値と実績値で乖離（概ね 80%未満または 110%超）のある項目についての分析及び説明

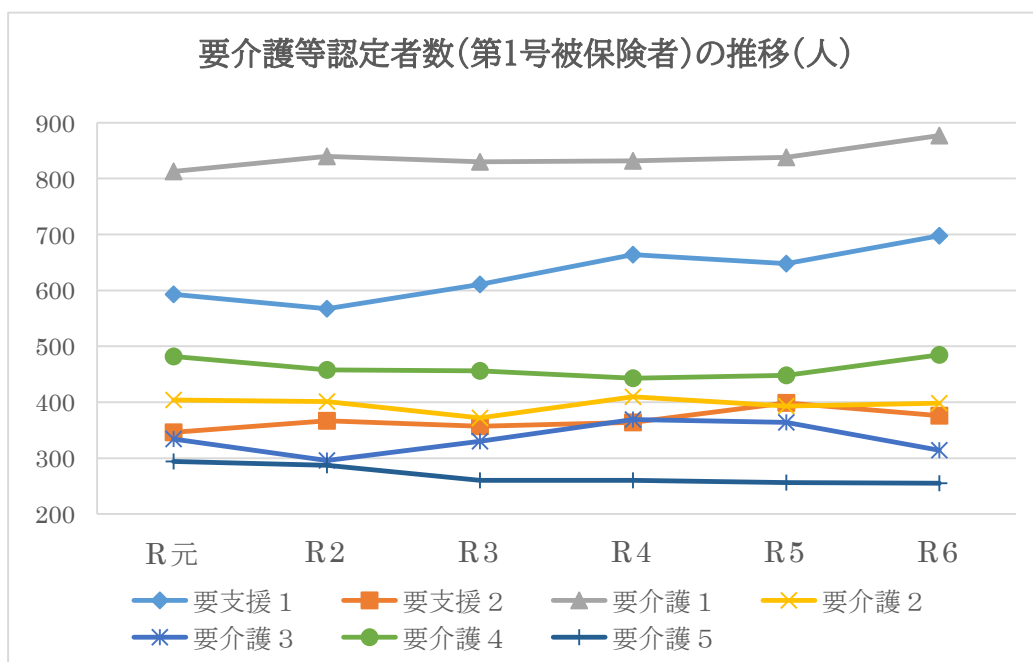
第1号被保険者・要介護等認定者数(第1号被保険者)の推移

大きな乖離は見られません。

ア. 総括表

本市の第1号被保険者数は、令和2年度をピークに減少していますが、後期高齢者数は増加しています。後期高齢者数の増加に伴い、要介護認定者数も増え、認定率も徐々に増加しています。

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
第1号被保険者数 (人)	19,590	19,613	19,573	19,549	19,476	19,436
前期高齢者 (人)	9,118	9,200	9,209	8,868	8,470	8,107
後期高齢者 (人)	10,472	10,413	10,364	10,681	11,006	11,329
要介護認定者数 (人)	3,266	3,216	3,216	3,342	3,346	3,403
要支援1 (人)	593	567	611	664	648	698
要支援2 (人)	346	367	357	364	399	376
要介護1 (人)	813	840	830	832	838	877
要介護2 (人)	404	401	372	410	393	398
要介護3 (人)	334	296	330	369	364	314
要介護4 (人)	482	458	456	443	448	485
要介護5 (人)	294	287	260	260	256	255
要介護認定率 (%)	16.7	16.4	16.4	17.1	17.2	17.5



介護度別に認定者の推移をみると、各介護度により増減傾向は異なりますが、要支援1の認定者の増加が目立ちます。本市の65歳以上の独居高齢者数は年々増加しており、軽度者が買物・ゴミ出し等の生活支援のため申請する件数が増えていることが推測されます。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
独居高齢者数(人)	4,456	4,515	4,617	4,738	4,867	4,983	5,053
男性(人)	1,240	1,295	1,334	1,395	1,465	1,517	1,553
女性(人)	3,216	3,220	3,283	3,343	3,402	3,466	3,500

1 特定施設入所者生活介護

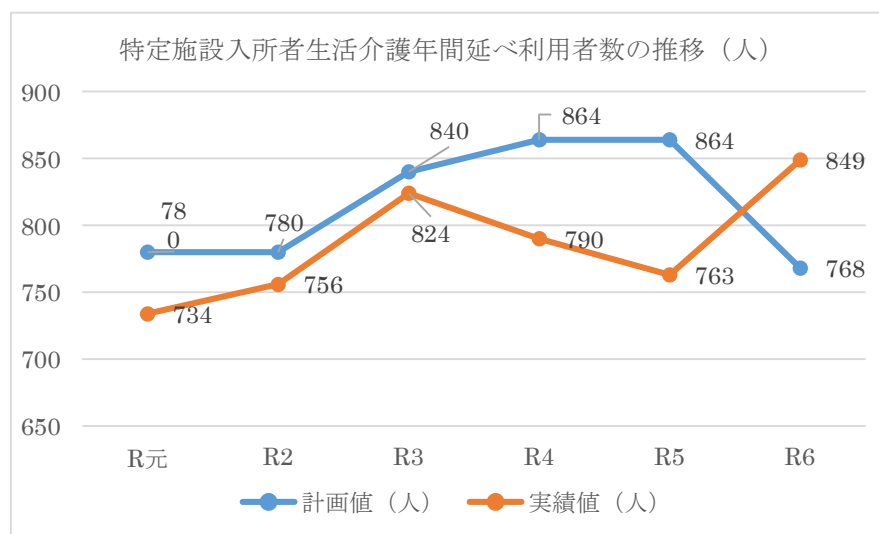
イ. 年間延べ利用者数 オ. 給付費

特定施設入所者生活介護は、有料老人ホーム等の特定施設に入居している要介護(要支援)者に対して、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の支援や機能訓練、療養上の支援を行うサービスです。

特定施設入所者生活介護の年間延べ利用者数と給付費の対計画比が110%を少し超えています。7期(H30～R2年度)までは利用者数・給付費とも徐々に増加していたため、8期(R3～5年度)も増加傾向が続く見込で計画値を設定していましたが、それまで延びていた実績値が、減少に転じました。9期(R6～8年度)の計画値は、8期の実績を加味し低く設定しており、対計画比の乖離につながったものと推察されます。実績値の伸びについては、要介護度の高い入所者が増えた場合等が考えられますが、もう少し詳しい分析が必要です。

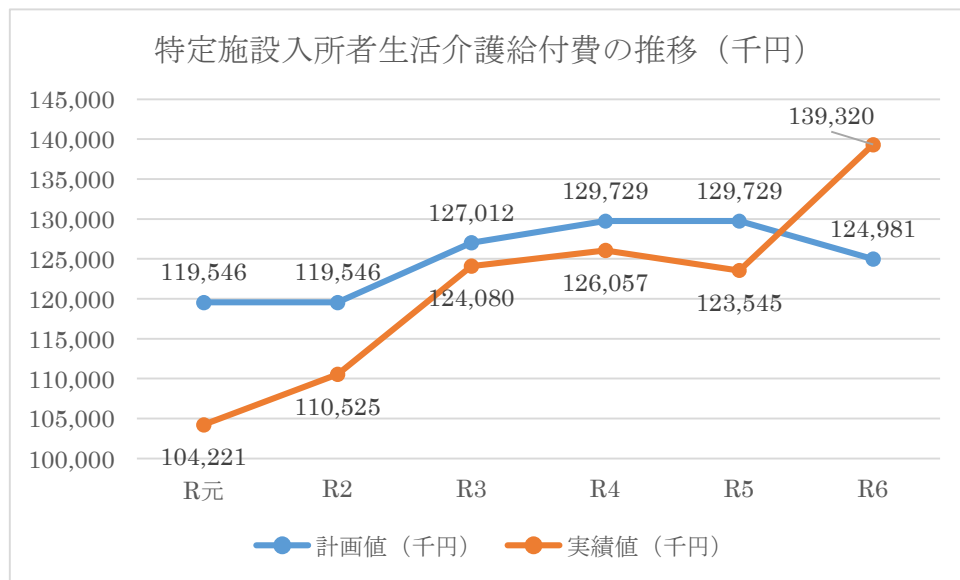
特定施設入所者生活介護年間延べ利用者数の推移(人)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(人)	780	780	840	864	864	768
実績値(人)	734	756	824	790	763	849
対計画比(%)	94	97	98	91	88	111



特定施設入所者生活介護給付費の推移(円)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(円)	119,546,000	119,546,000	127,012,000	129,729,000	129,729,000	124,981,000
実績値(円)	104,220,895	110,525,005	124,079,863	126,056,714	123,545,126	139,319,837
対計画比(%)	87	92	98	97	95	111



2

訪問入浴介護

イ. 年間延べ利用者数

オ. 給付費

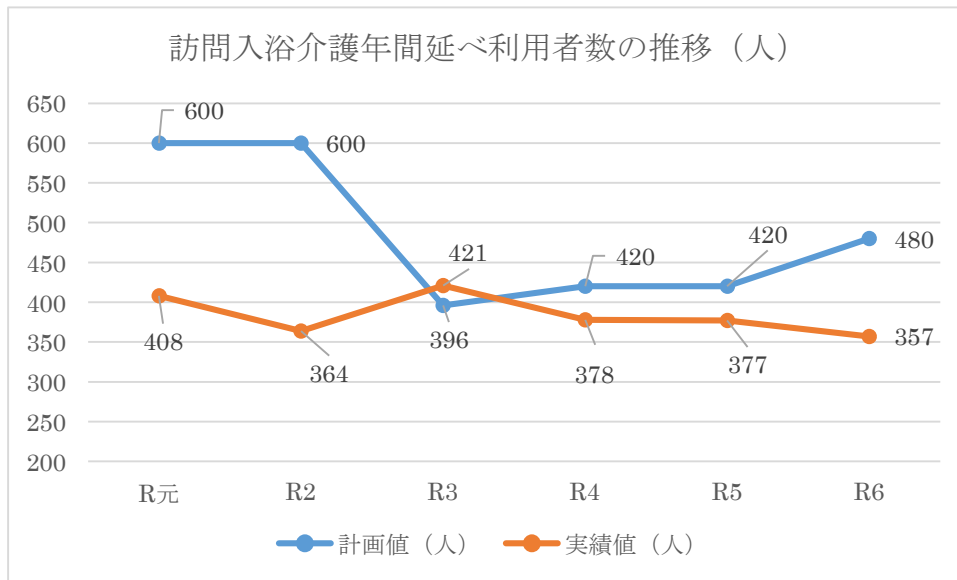
訪問入浴介護は、簡易浴槽等を積んだ移動入浴車等により居宅を訪問し、入浴の介護を行うサービスです。

認定者数、認定率とも増加しており、今後の需要を見込み、計画値を増やしていますが、実績は伸びていません。

要因として考えられるのは、通所が可能な方は通所での入浴介助を選択し、介護度が高くなると施設入所を選択するケースが多く、訪問入浴介護の対象となる利用者は少ない状況があります。また、自宅に簡易浴槽を持ち込むため、ある程度の広さや近くに排水場所、入浴車を停める場所も必要になるため、環境の要因で利用が難しい場合もあります。さらに、人員不足により、市内の訪問入浴介護の事業所が令和3年3月にサービスを終了するなど、供給が十分でない可能性も考えられます。

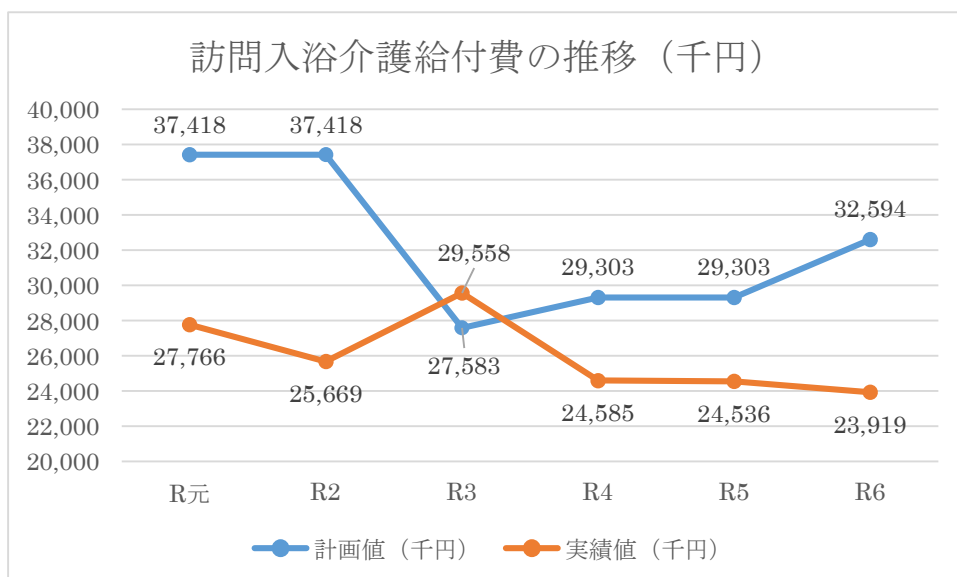
訪問入浴介護年間延べ利用者数の推移(人)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(人)	600	600	396	420	420	480
実績値(人)	408	364	421	378	377	357
対計画比(%)	68	61	106	90	90	74



訪問入浴介護給付費の推移(円)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(円)	37,418,000	37,418,000	27,583,000	29,303,000	29,303,000	32,594,000
実績値(円)	27,765,861	25,669,427	29,557,530	24,585,194	24,536,264	23,918,736
対計画比(%)	74	69	107	84	84	73



イ. 年間延べ利用者数 才. 給付費

訪問看護は、通院が困難な利用者に対して、病院、診療所または訪問看護ステーションの看護師が居宅を訪問し、療養上の支援や必要な診療の補助を行うサービスです。

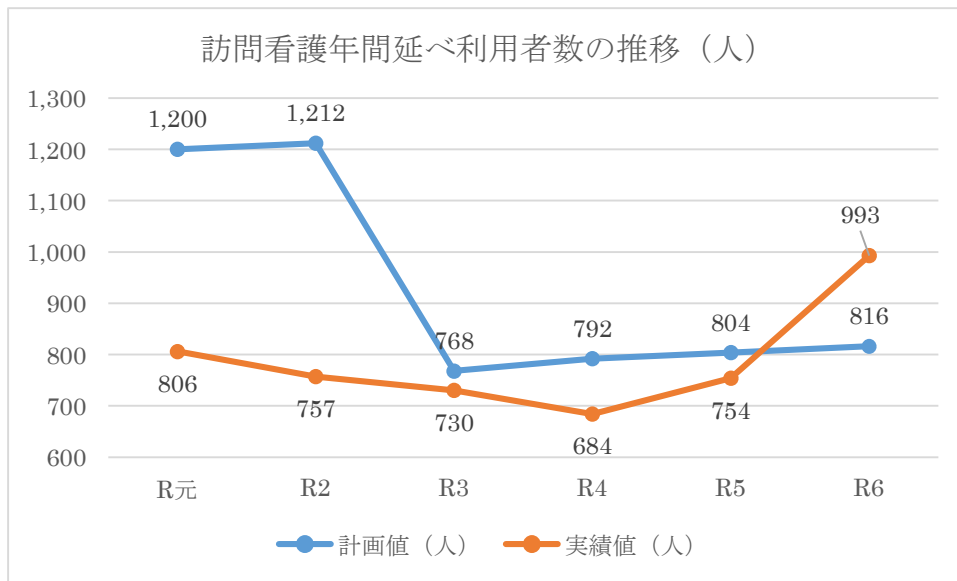
訪問看護の年間延べ利用者数・給付費とも実績値の増加が計画値の増加を上回っています。ここ数年で市内の訪問看護の事業所は増えており、利用者数・給付費の増加につながったものと考えます。

市内の訪問看護ステーション整備状況(4月1日時点)

	R3	R4	R5	R6	R7
事業所数	2	2	3	4	5

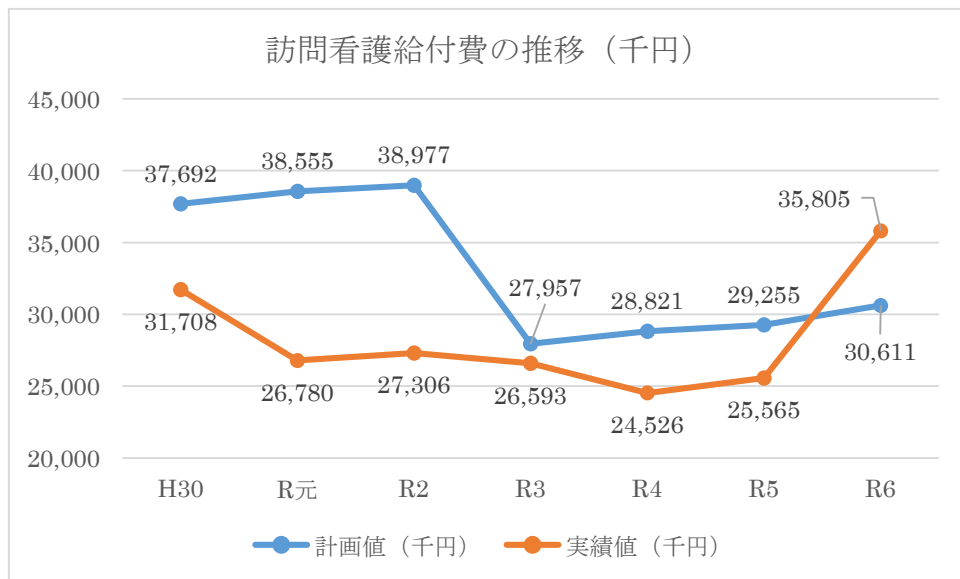
訪問看護年間延べ利用者数の推移(人)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(人)	1,200	1,212	768	792	804	816
実績値(人)	806	757	730	684	754	993
対計画比(%)	67	62	95	86	94	122



訪問看護給付費の推移(円)

	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(円)	37,692,000	38,555,000	38,977,000	27,957,000	28,821,000	29,255,000	30,611,000
実績値(円)	31,707,575	26,780,035	27,305,541	26,593,296	24,525,655	25,565,177	35,804,944
対計画比(%)	84	69	70	95	85	87	117

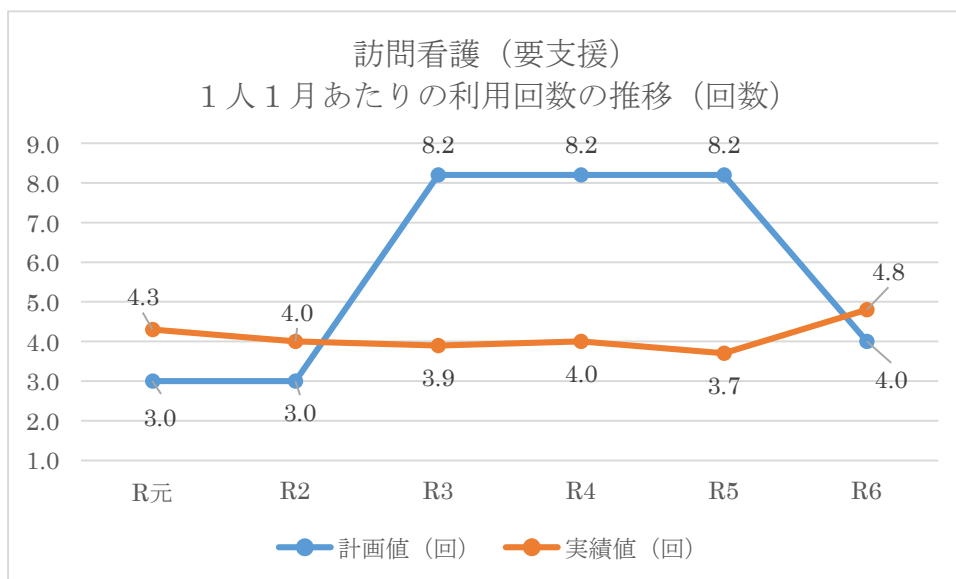


ウ. 1人1月あたりの利用回数

1人1月あたりの利用回数についても増加しており、計画値との乖離がみられます。供給量の増加が利用回数の増加につながったとも考えられますが、要支援の訪問看護については、利用者数が少ないことから、少数の利用者の要介護度や病状の変化に伴う利用状況の変化が、1人1月あたりの利用回数の増加や対計画比に影響を与えた可能性が高いと考えます。

訪問看護（要支援）1人1月あたりの利用回数の推移（回数）

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値 (回)	3.0	3.0	8.2	8.2	8.2	4.0
実績値 (回)	4.3	4.0	3.9	4.0	3.7	4.8
対計画比 (%)	144	135	48	49	45	121



4 特定福祉用具販売

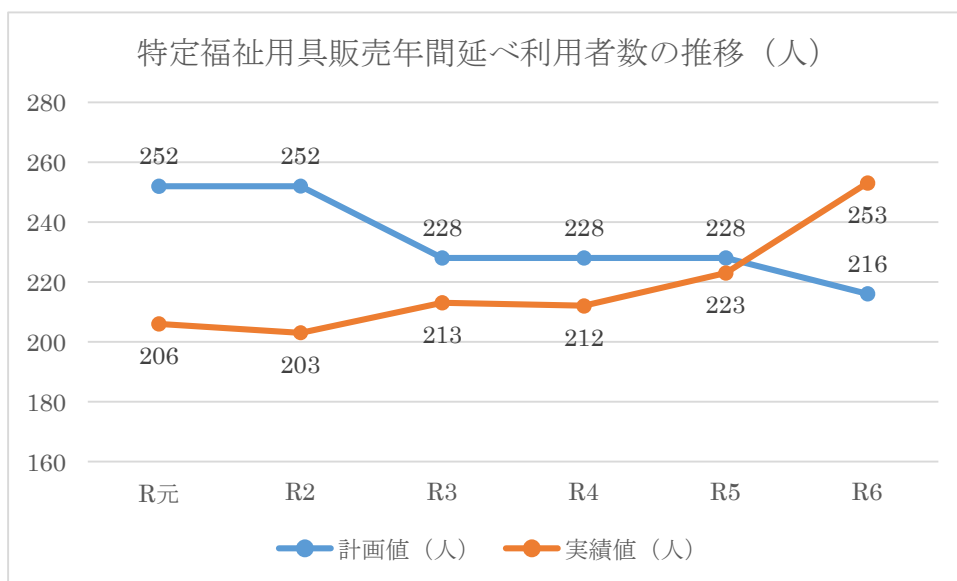
イ. 年間延べ利用者数

特定福祉用具販売は、腰掛便座や入浴補助用具等の貸与になじまない福祉用具を購入した際に、購入費の一部を支給するサービスです。

利用者数は、増加傾向にあります。令和6年度の伸びは大きいです。これは令和6年4月の制度改正により、今まで福祉用具貸与(レンタル)でしか利用できなかった3品目(スロープ、歩行器、歩行補助杖の一部)について、貸与と購入を選択できるようになったことが主な要因です。長期利用が見込まれる方などが購入を選択し、利用者数が増加しています。

特定福祉用具販売年間延べ利用者数の推移(人)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(人)	252	252	228	228	228	216
実績値(人)	206	203	213	212	223	253
対計画比(%)	82	81	93	93	98	117



令和6年度の選択制3品目の実績

(参考)

令和6年度		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	
固定用 スロープ	4月	給付件数	0	0	0	0	0	0	0	0
		給付総額	0	0	0	0	0	0	0	0
	5月	給付件数	0	0	0	0	0	2	0	2
		給付総額	0	0	0	0	0	9,072	0	9,072
	6月	給付件数	0	1	0	0	0	0	0	1
		給付総額	0	10,296	0	0	0	0	0	10,296
歩行器 (歩行車除 く)	4月	給付件数	0	0	0	0	0	0	0	0
		給付総額	0	0	0	0	0	0	0	0
	5月	給付件数	0	0	0	0	0	0	0	0
		給付総額	0	0	0	0	0	0	0	0
	6月	給付件数	0	0	1	1	0	0	0	2
		給付総額	0	0	15,840	32,256	0	0	0	48,096
歩行補助杖 の一部	4月	給付件数	0	0	0	0	0	0	0	0
		給付総額	0	0	0	0	0	0	0	0
	5月	給付件数	0	0	0	0	0	0	0	0
		給付総額	0	0	0	0	0	0	0	0
	6月	給付件数	1	1	1	1	0	0	0	4
		給付総額	12,816	8,488	13,608	12,996	0	0	0	47,908

5 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

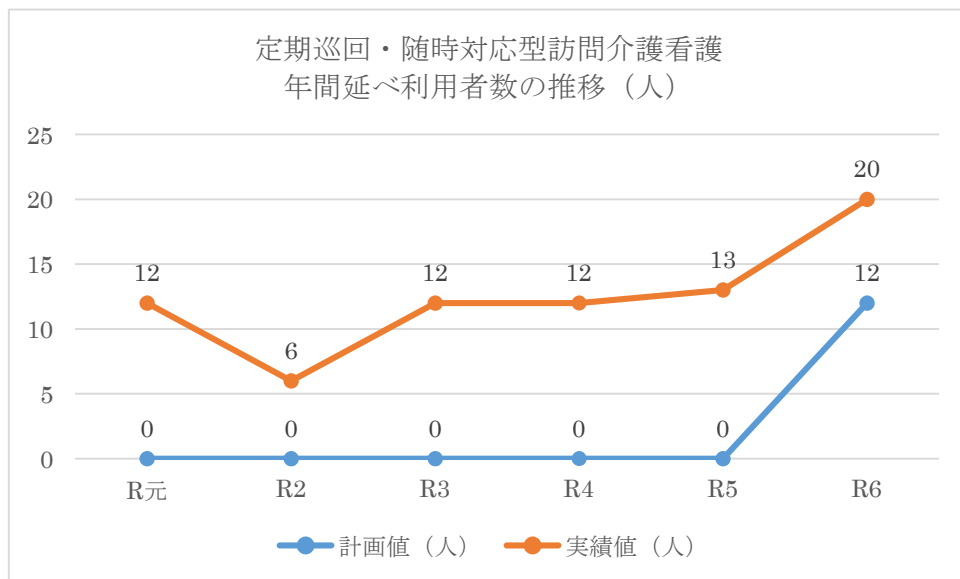
イ. 年間延べ利用者数 工. 受給者1人あたりの給付費 オ. 給付費

重度者を始めとした要介護高齢者の在宅生活を支えるため、日中・夜間を通して、訪問介護と訪問看護を一体的に又はそれぞれが密接に連携しながら、定期巡回訪問と随時の対応を行うサービスです。

市内に事業所はないことから、市外の特例施設の入所者が、その地域で当該サービスを利用していることが考えられますが、要因として考えられるのは、母体となる利用者が極めて少なく、限られた利用者の利用状況が、対計画比に影響を与えている状況です。

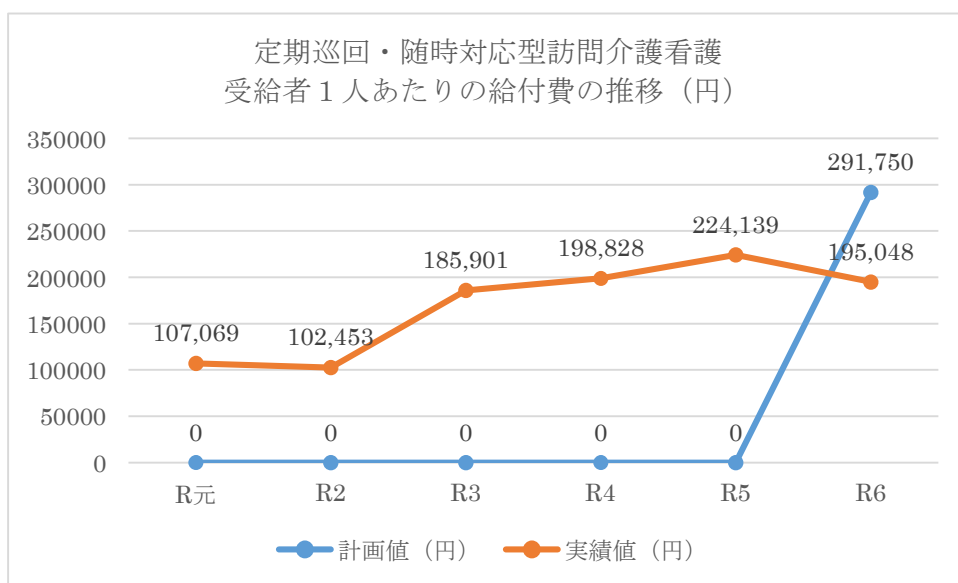
定期巡回・随時対応型訪問介護看護年間延べ利用者数の推移(人)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(人)	0	0	0	0	0	12
実績値(人)	12	6	12	12	13	20
対計画比(%)	-	-	-	-	-	167



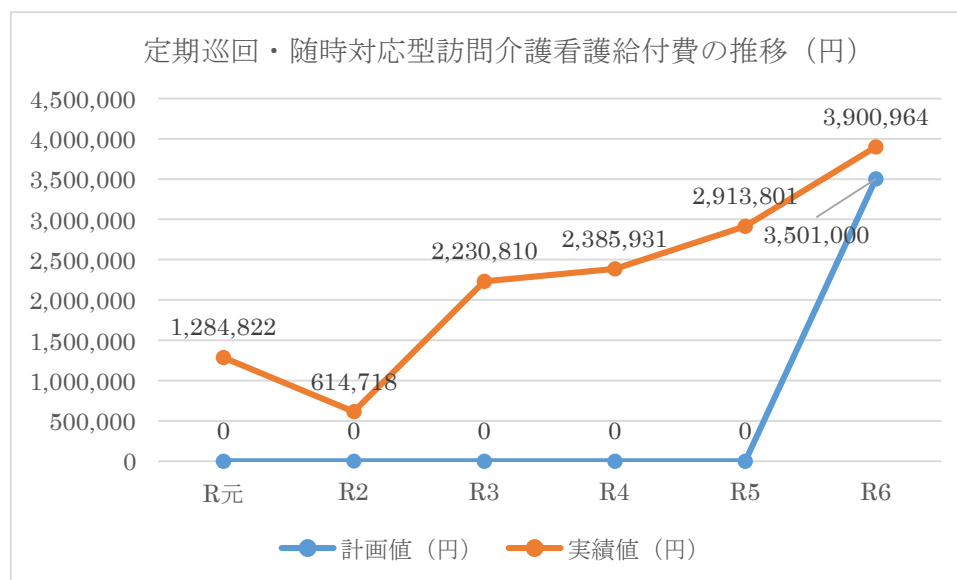
定期巡回・随時対応型訪問介護看護受給者1人あたりの給付費の推移（円）

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値（円）	-	-	-	-	-	291,750
実績値（円）	107,069	102,453	185,901	198,828	224,139	195,048
対計画比（%）	-	-	-	-	-	67



定期巡回・随時対応型訪問介護看護給付費の推移(円)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(円)	0	0	0	0	0	3,501,000
実績値(円)	1,284,822	614,718	2,230,810	2,385,931	2,913,801	3,900,964
対計画比(%)	-	-	-	-	-	111



6

小規模多機能型居宅介護

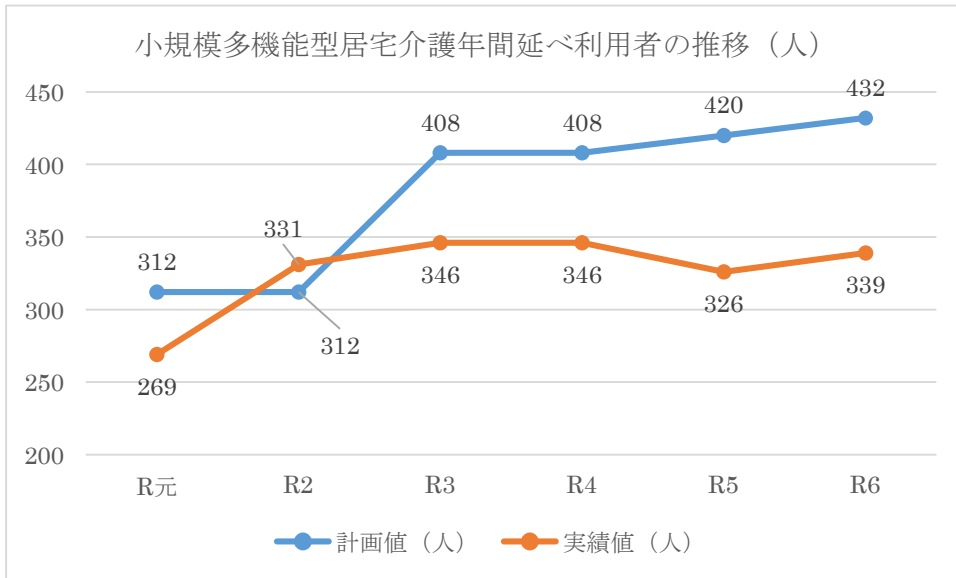
イ. 年間延べ利用者数 才. 給付費

小規模の住宅施設で、施設への通いを中心に、居宅への訪問、短期間の宿泊を組み合わせ、入浴、排せつ、食事等の介護や機能訓練を行うサービスです。

市内の事業所は1カ所(定員 29 名)のみであり、実績値については、例年と大きな差は見られません。ただ、8期(令和3年度)以降、計画値を増やしているため、結果として計画値と実績値との乖離につながっています。

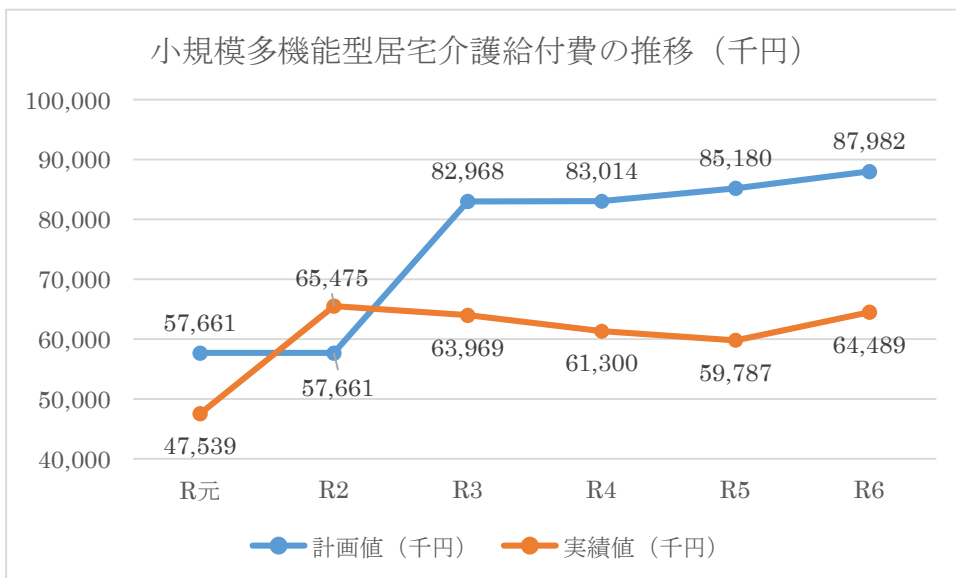
小規模多機能型居宅介護年間延べ利用者の推移(人)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(人)	312	312	408	408	420	432
実績値(人)	269	331	346	346	326	339
対計画比(%)	86	106	85	85	78	78



小規模多機能型居宅介護給付費の推移(円)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(円)	57,661,000	57,661,000	82,968,000	83,014,000	85,180,000	87,982,000
実績値(円)	47,539,002	65,475,459	63,968,584	61,299,732	59,787,247	64,489,484
対計画比(%)		82	114	77	74	70



訪問リハビリテーション(要支援)

ウ. 1人1月あたりの利用回数

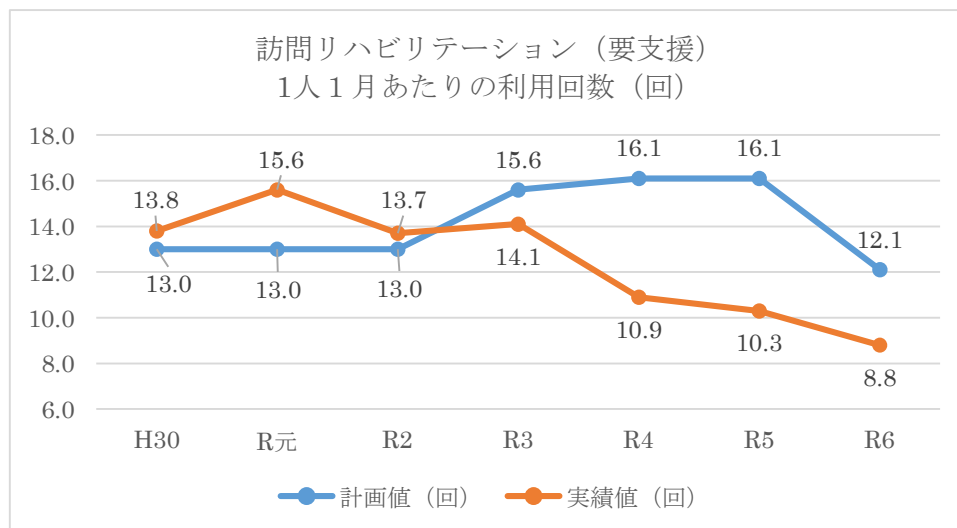
訪問リハビリテーションは、通院が困難な利用者に対して、理学療法士や作業療法士等が居宅を訪問し、心身の機能回復を図るために必要なリハビリテーションを行うサービスです。

要介護の1人1月あたりの利用回数が横ばいなのに対し、要支援の1人1月あたりの利用回数はここ数年減少が続いています。要因としては、母体となる利用者が少なく、利用者の利用状況が対計画比に与える影響が大きいことが考えられます。

また、要支援の利用者の内、要支援1の認定者の割合をみると、令和6年度は高くなっています。支給限度額との兼ね合いで、要支援の1人1月あたりの利用回数が少なくなったと推察することもできます。

訪問リハビリテーション（要支援）1人1月あたりの利用回数（回）

	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値（回）	13.0	13.0	13.0	15.6	16.1	16.1	12.1
実績値（回）	13.8	15.6	13.7	14.1	10.9	10.3	8.8
対計画比（%）	106	120	105	91	68	64	73



(参考値)

	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
要支援の利用者の内 要支援1の割合（%）	43.4	32.4	22.9	0.0	46.9	46.7	56.0

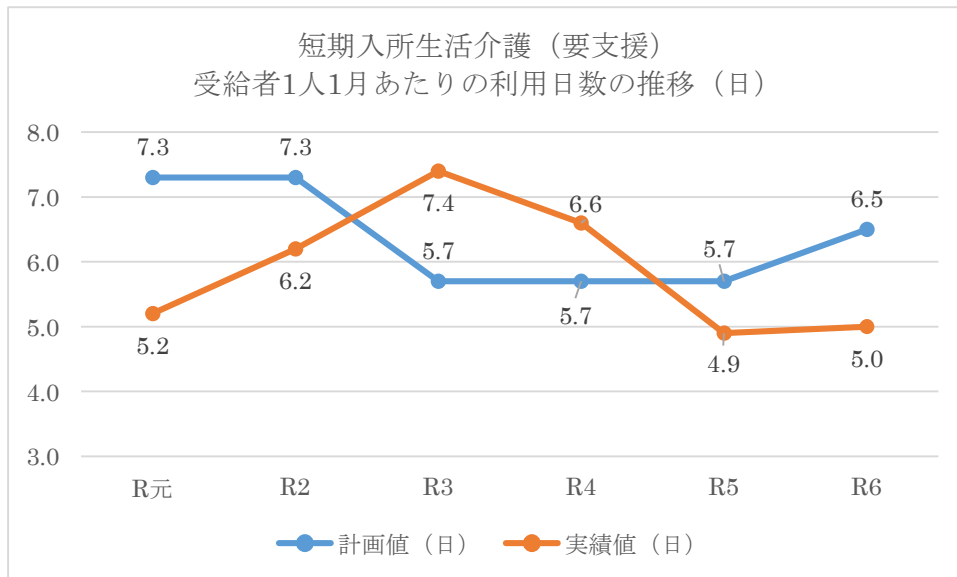
ウ. 1人1月あたりの利用日数

短期入所生活介護は、介護老人福祉施設等に短期間入所している要介護(要支援者)に対して、入浴、排せつ、食事の介護等日常生活上の支援や機能訓練を行うサービスです。

短期入所生活介護は、併設の介護老人福祉施設等の入所者と同じフロアでサービスを提供している事業所が多く、短期入所中に併設の施設で新型コロナウイルス感染症が発生すると短期入所利用中の方も感染している可能性があり、利用期間が延長されるケースなどがありました。コロナ禍では利用日数が多くなっていましたが、令和5年度からは概ねコロナ禍前の利用日数に戻っています。ただ、8期の実績で9期の計画値を見込んでおり、結果として計画値と実績値の乖離につながったと考えられます。

短期入所生活介護(要支援)受給者1人1月あたりの利用日数の推移(日)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(日)	7.3	7.3	5.7	5.7	5.7	6.5
実績値(日)	5.2	6.2	7.4	6.6	4.9	5.0
対計画比(%)	70	84	130	114	85	76



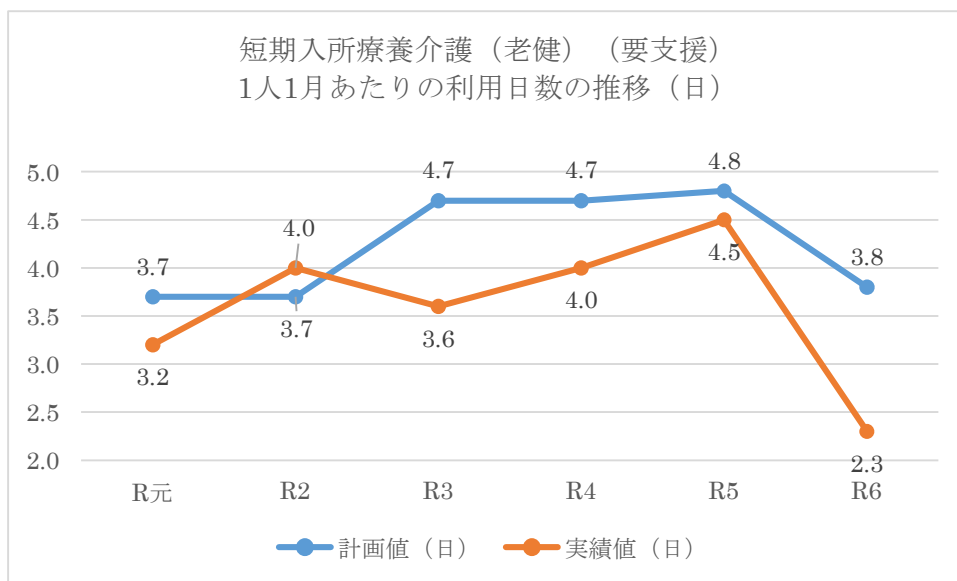
ウ. 1人1月あたりの利用日数

短期入所療養介護は、介護老人保健施設に短期間入所している要介護(要支援)者に対して、看護、医学的管理のもと介護、機能訓練、その他必要な医療や日常生活上の支援を行うサービスです。

介護老人保健施設の短期入所療養介護は空きベッド利用のため、母体となる要支援の利用者数は極めて少ない状況です。そのため、1人の利用状況の変化が対計画比に与える影響も大きく、計画値と実績値の乖離につながったと推察されます。

短期入所療養介護(老健)(要支援)1人1月あたりの利用日数の推移(日)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(日)	3.7	3.7	4.7	4.7	4.8	3.8
実績値(日)	3.2	4.0	3.6	4.0	4.5	2.3
対計画比(%)	86	108	76	85	94	61



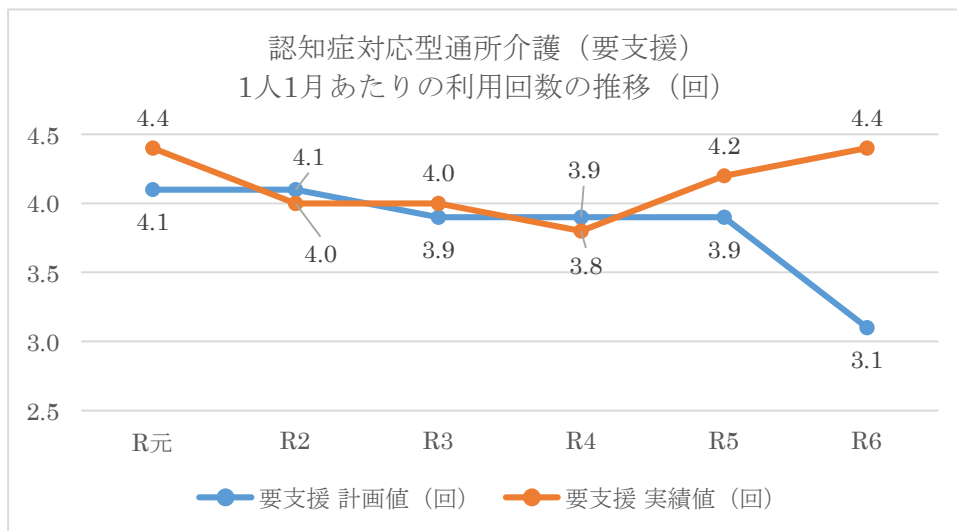
ウ. 1人1月あたりの利用回数**工. 受給者1人あたりの給付費****オ. 給付費**

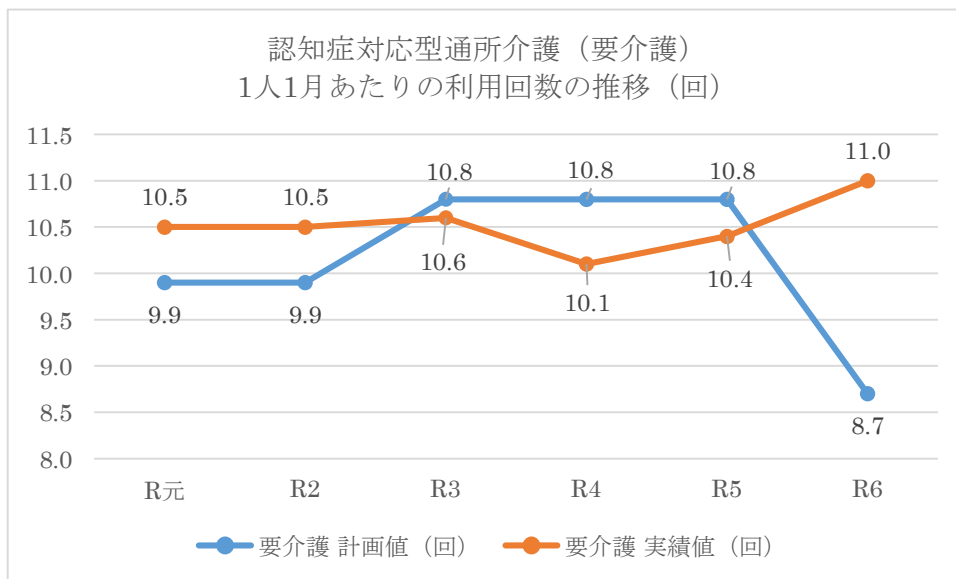
認知症対応型通所介護は、認知症の要介護(要支援)者に対して提供される通所介護であり、デイサービスセンター等への通所により、入浴、排せつ、食事等の介護や日常生活上の支援、機能訓練を行うサービスです。

市内にある認知症対応型通所介護の事業所3ヶ所の内、1ヶ所の事業所が令和4年6月30日から休止(令和5年12月末で廃止)したため、8期は年間延べ利用者数や給付費の実績値が計画値を大きく下回りました。そのため、9期からは計画値を下方修正していますが、1人1月あたりの利用回数や受給者1人あたりの給付費は、計画値を上回り、結果として、計画値との乖離につながりました。

認知症対応型通所介護 1人1月あたりの利用回数の推移(回)

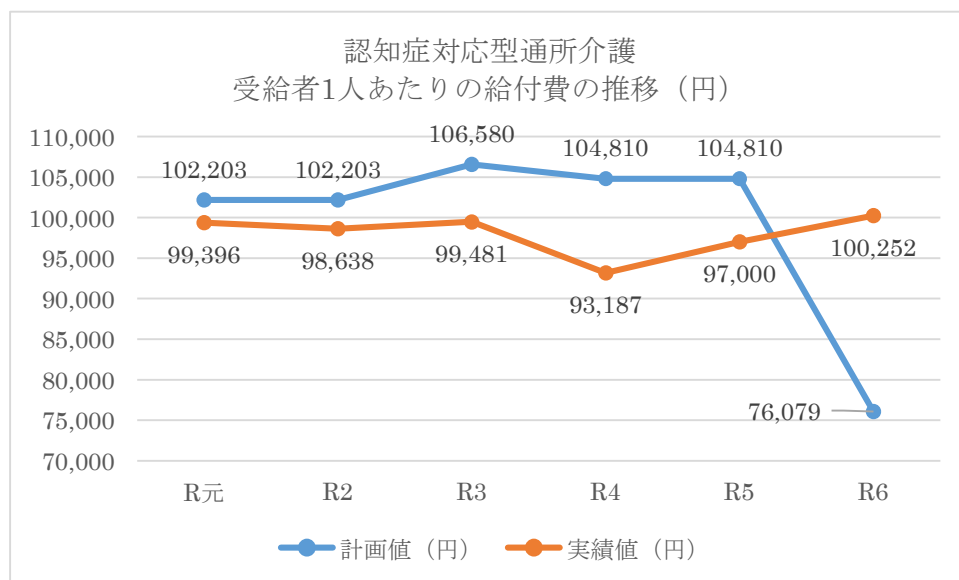
		R元	R2	R3	R4	R5	R6
要支援	計画値(回)	4.1	4.1	3.9	3.9	3.9	3.1
	実績値(回)	4.4	4.0	4.0	3.8	4.2	4.4
	対計画比(%)	108	98	101	97	108	141
要介護	計画値(回)	9.9	9.9	10.8	10.8	10.8	8.7
	実績値(回)	10.5	10.5	10.6	10.1	10.4	11.0
	対計画比(%)	106	106	98	94	97	126





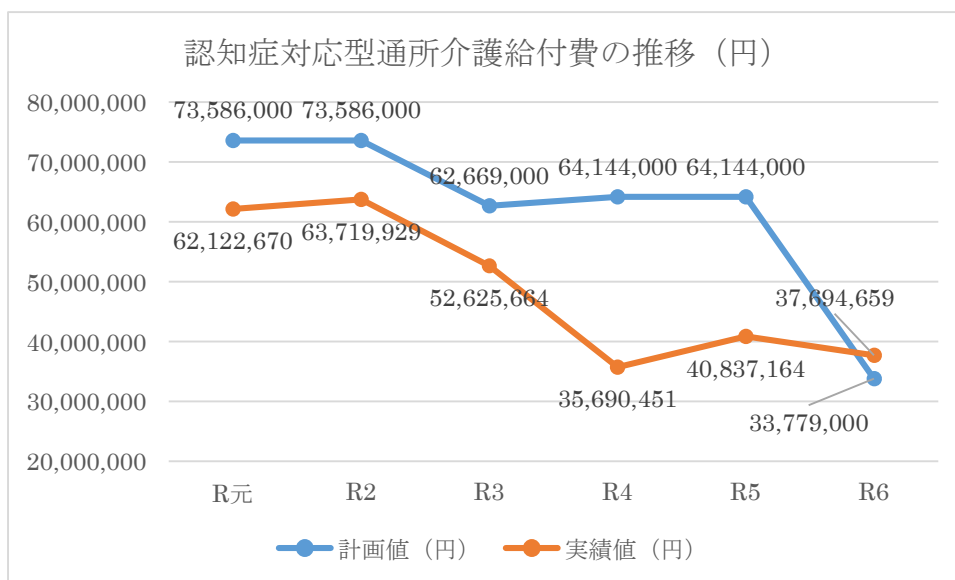
認知症対応型通所介護受給者1人あたりの給付費の推移(円)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(円)	102,203	102,203	106,580	104,810	104,810	76,079
実績値(円)	99,396	98,638	99,481	93,187	97,000	100,252
対計画比(%)	97	97	93	89	93	132



認知症対応型通所介護給付費の推移(円)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(円)	73,586,000	73,586,000	62,669,000	64,144,000	64,144,000	33,779,000
実績値(円)	62,122,670	63,719,929	52,625,664	35,690,451	40,837,164	37,694,659
対計画比(%)	84	87	84	56	64	112



11

居宅療養管理指導

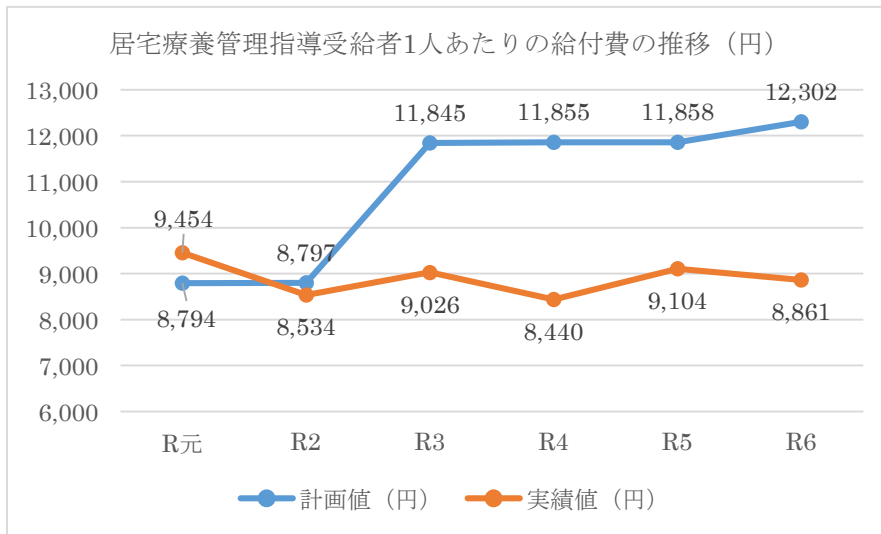
Ⅰ. 受給者1人あたりの給付費

居宅療養管理指導は、通院が困難な利用者に対して、医師、歯科医師、薬剤師等が居宅を訪問し、療養上の管理や指導を行うサービスです。

要介護状態になった場合でも、可能な限り在宅で生活する上で、通院せずとも専門的な指導が受けられるのが、居宅療養管理指導の魅力です。在宅での療養上の管理を必要としている人が増えること、受給者一人あたりの給付費も増えることを見込み、令和3年度からの計画値を増やしていますが、結果として実績値は伸びず、計画値との乖離が見られます。要因としては、まだまだ利用者の認知度の低さや他職種連携の課題があることが考えられます。

居宅療養管理指導受給者1人あたりの給付費の推移(円)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(円)	8,794	8,797	11,845	11,855	11,858	12,302
実績値(円)	9,454	8,534	9,026	8,440	9,104	8,861
対計画比(%)	108	97	76	71	77	72



12

住宅改修

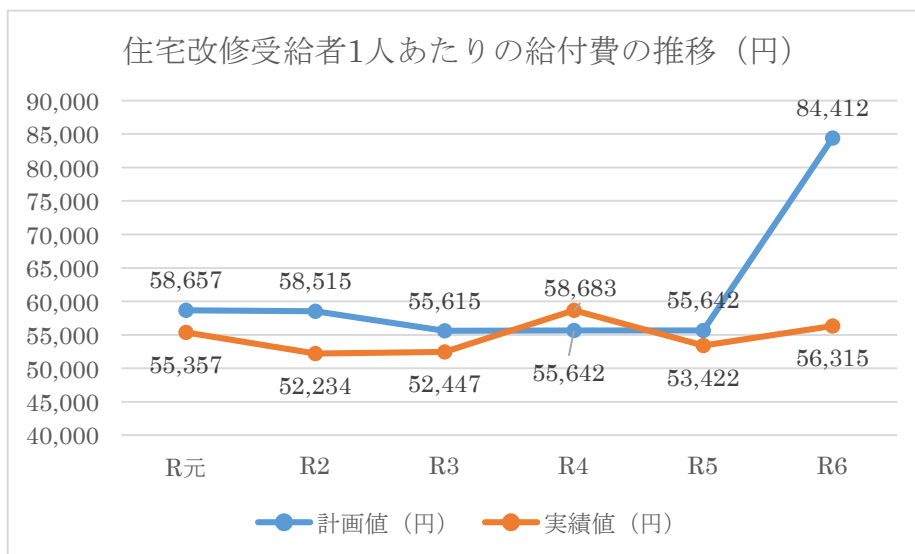
工. 受給者1人あたりの給付費 **オ. 給付費**

住宅改修は、利用者の在宅生活の継続や家族の介護負担軽減を図るため、手すりの取り付けや段差の解消等の住宅改修を行った際に、改修費用の一部を支給するサービスです。

受給者1人あたりの給付費、給付費とも計画値との乖離が目立ちます。9期計画は、令和5年度の9月サービス提供分までの実績に基づく計画値であり、令和5年度前半の住宅改修の実績が多く、給付費の増加を見込み過ぎたことが、その要因と考えます。

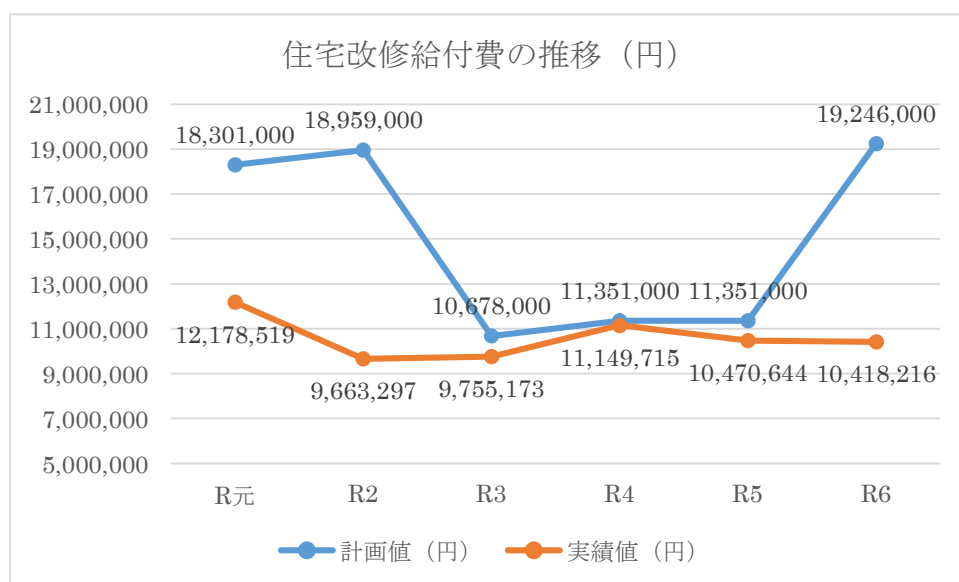
住宅改修受給者1人あたりの給付費の推移（円）

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値（円）	58,657	58,515	55,615	55,642	55,642	84,412
実績値（円）	55,357	52,234	52,447	58,683	53,422	56,315
対計画比（%）	94	89	94	105	96	67



住宅改修給付費の推移(円)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(円)	18,301,000	18,959,000	10,678,000	11,351,000	11,351,000	19,246,000
実績値(円)	12,178,519	9,663,297	9,755,173	11,149,715	10,470,644	10,418,216
対計画比(%)	67	51	91	98	92	54



13

訪問介護

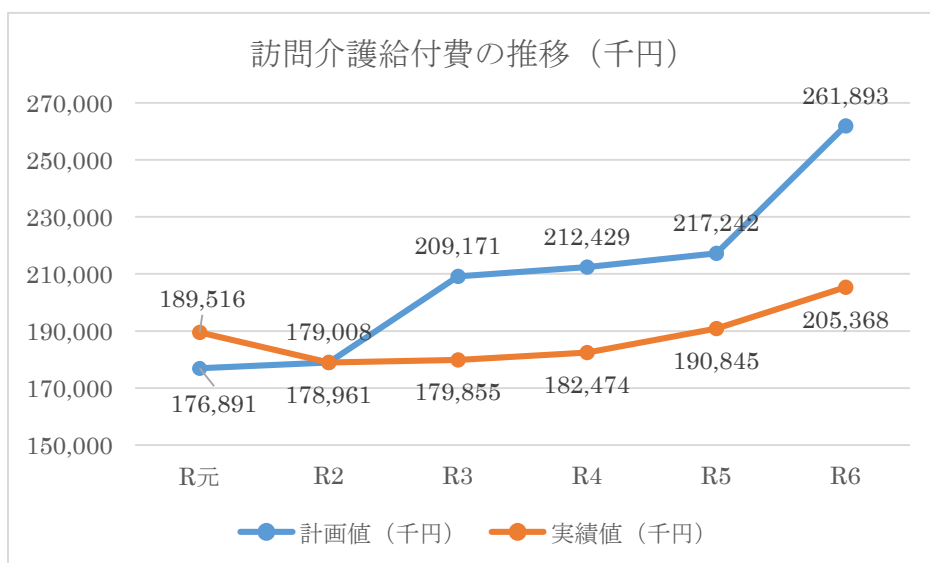
オ. 給付費

訪問介護員(ホームヘルパー)等が居宅を訪問し、食事、入浴、排せつ等の身体介護や調理、掃除等の生活援助を行うサービスです。

9期計画では要介護認定者の増加に伴うニーズの増加を見込んでいました。実績値の年間延べ利用者数は増加しており、利用者数が増えていることが分かります。ただ、事業所の人員不足により、代替えサービスで対応したり、利用回数を増やせなかったり、利用を待ってもらするなど、思うように利用ができない状況が続いています。そのため実績値が伸びず、計画値との乖離が大きくなっています。

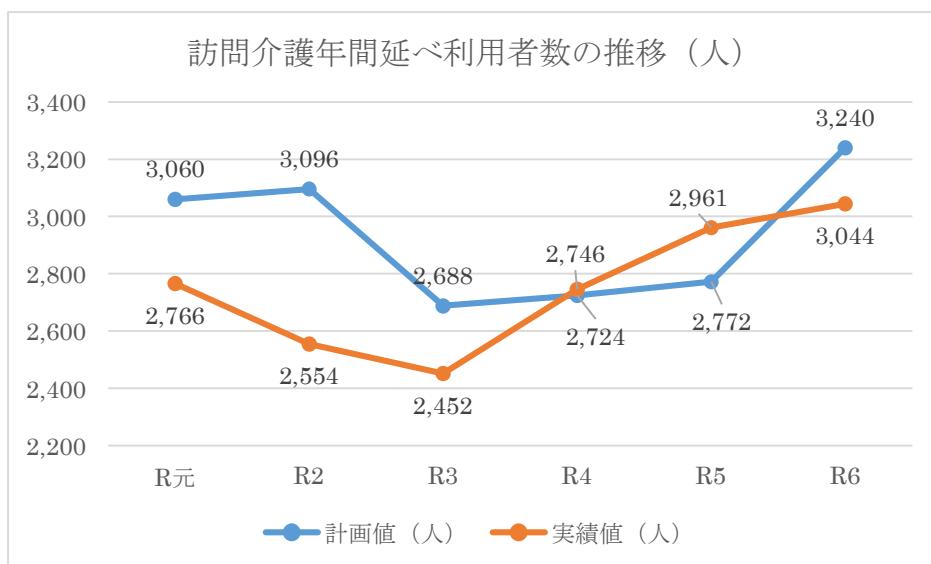
訪問介護給付費の推移(円)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値(円)	176,891,000	179,008,000	209,171,000	212,429,000	217,242,000	261,893,000
実績値(円)	189,516,108	178,961,027	179,855,305	182,473,570	190,845,024	205,368,216
対計画比(%)	107	100	86	86	88	78



訪問介護年間延べ利用者数の推移(人)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
計画値 (人)	3,060	3,096	2,688	2,724	2,772	3,240
実績値 (人)	2,766	2,554	2,452	2,746	2,961	3,044
対計画比 (%)	90	82	91	101	107	94



【総括】

- 全体では総給付費の対計画比が 95.9%と、概ね計画値通りの実績です。
- 施設・居住系・在宅サービスのうち、在宅サービス給付費が 90.3%と施設・居住系より低いのは、訪問介護の計画値との乖離の影響が大きいものと考えます。